

一 告 告



須山 大輝 (すやま ひろき)

金沢工業大学大学院工学研究科  
情報工学専攻  
博士前期課程一年  
長野県立松本工業高等学校出身

# 「できない」と逃げる自分を、 一八〇度変えたコーオプ教育。

ひとつの体験が、人の意識と行動を魔法のように変える時がある。須山さんの場合、今年二月まで九カ月間、取り組んだ産学協同教育「KITコーオプ教育プログラム」が、自身の熱い鉄を打つ、その道場となった。

「苦手なことは、いつもやる前から『できません』と言い訳をして、挑戦を避けていました。それが、プログラムに参加して四カ月目あたりから『いつもの口癖が出なくなったね』と言われ、変わり始めた自分に気づくことができました」

大学と企業が連携して提供するKITコーオプ教育プログラムは、学生が企業の社員として課題発見と解決の実務に従事し、実践力を磨く点特徴。学部四年生だった須山さんは、システム事業など

を展開する石川県内の企業にテレワークも含めて週三日、出社し、クラウド型ビジネスチャットツールを利用した「勤怠管理Bot」と「点検・最終退社チェックBot」の開発メンバーに加わった。

「初めてのことはできなくて当たり前。どうすればできるようになるかを自分なりに考え、チームでアイデアを出し合って解決の道を探ればいから。指導にもあったメンバーのひとりで、緊張の糸と肩の力がほぐれた。それでも、要件定義から技術調査、システム設計・製作、動作検証まで、ソフトウェア開発の全工程を担当するだけに、プレッシャーと試行錯誤は途切れることがなかったという。

「授業が実務につながっていることを実感できました。また、開発の目的意識やニーズの把握、ディスカッションの重要性はもとより、課題解決の手法がひとつでないことが痛いほど分かりました」

ちなみに、「点検・最終退社チェックBot」はBotと対話しながらチェック項目を確認、報告していくシステムで、退社時に事務機器やエアコン、照明などの電源をオフにする指示をスマホ画面などに表示する。Botの基盤には須山さんの意見が随所に織り込まれ、その基盤を活用した商品化も進んでいるそう。

「その知らせを聞いて、本当にうれしかったです。プロジェクトの背中を押してくれた研究室の松井くにお先生、開発現場で親身に接していただいたメンバーの皆さんには感謝しありません」

過去の自分と決別し、身に備えた「やればできる」の自信。これこそ、未来へと続く彼の道を豊かに拓き、確かな歩みを刻んでいく金剛杖となるに違いない。

## 金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七七一  
電話番号(076)2482100

KIT  
キャンパス  
レポート  
文・杉村裕之